

知事記者会見（平成22年5月24日）

●知事発表

（1）「口蹄疫」に関する県の対応について

●幹事社質問

（1）参議院選挙について

●その他の質問

（1）湖東地区の医療再編計画について

（2）行政刷新会議の事業仕分けについて

（3）国民健康保険の広域化について

時間：11：30～12：13

場所：プレゼンテーションルーム

（幹事社）

これから定例会見を始めさせていただきます。

まず、知事から発表事項があるとのことですので、よろしくをお願いします。

（知事）

ペーパーが配付されていると思いますが、これは、口蹄疫に係る県の当面の防疫対策です。現在のところ、宮崎県以外への感染については確認されていませんけれども、宮崎県の感染ルートも定かではないということで、なかなか終息の方向にありません。また、昔と違い、観光客も含め人の往来が多く、県内の畜産の状況を見ますと、これを遠いところの問題ととらえるということではできないと思います。そういうことで、4月20日（宮崎県での口蹄疫）の発生以降、農家や関係機関に対して、逐次、情報を提供したり、（家畜等の）異常確認等を行ったり、家畜市場の開催時には、車両の消毒などを行ってきました。終息して、他県への感染拡大がなければいいのですが、これが全くないとは言い切れません。私どもも万全の対策を講ずる必要があると考え、本日、午後に全庁に及びますけれども、関係部局を集めて、口蹄疫対策の危機管理連絡部を立ち上げることにしました。感染が拡大した場合、農林水産部の畜産関係の課所だけで対応はできません。道路の封鎖など、いろいろな問題が絡んできますので、本日、この危機管理連絡部を設置しまして、早速具体的な対策を講ずることにしました。

27日には県内の関係団体、あるいはJA、市町村等の担当者会議を開催しまして、連携体制を密にするということにしました。

現在の時点では、今までと同様に、情報の徹底、あるいは現場で何らかの異常があれば

すぐに確認するという体制に加えて、県内の畜産農家約1,700戸、豚・牛等合わせまして30万頭を超える家畜がいます。消毒液についてですが、畜舎出入口に、踏み込んで足の裏を消毒する炭酸ナトリウムと、もう一つは周辺を消毒する消石灰を、1,700戸に無料でこれらの消毒液等を配布するということにしました。

出入口の踏み込み消毒用としては、畜産農家で1カ月ぐらい持つ分と、周辺の消毒については約1回散布分を配布することにしました。あとは、再度一斉調査、これも再度ですが、注意喚起用のリーフレットを配布します。

それと、秋田空港について、これは仙台の空港の動物検疫所の所管ですが、特に韓国でも口蹄疫の発生が確認されていますので、引き続き秋田空港での検疫、消毒等について、なお徹底するように申し入れることにしています。

今までは事前の防疫対策ですが、その後、万が一県内で発生するというようなことになれば、さらに防疫対策のレベルを上げなければなりません。初動対応のために消毒液等を配布することになると、その分（消毒液が）不足となりますので、順次、消毒液等を積み増ししまして、万が一の場合にも対応するということです。これらは、通常でも一定量は使っていますので、無駄にはなりません。備蓄を増やすということです。

本日、あるいは27日の会議では、万が一発生した場合の対応をどうするかということについても、より専門的な見地から情報交換をすることになっています。

非常に現場ではピリピリしている状況で、何とか宮崎県だけで封じ込めてほしいという思いがあります。いずれにしても、畜産農家の方が特に心配しています。畜産農家を全部集める、牛や豚に接している人を集めての説明会というのが開催できない状況です。できるだけ接触しないようにするというのが一番の感染防止ですので、なかなか情報の徹底が非常に難しいこともあります。いずれにしても関係部局全体で臨むということです。

(幹事社)

ありがとうございました。

では、各社さん、この件について質問ありましたらお願いします。

では、幹事社からの質問に移らせていただきます。

7月11日、投開票という情報もありますけれども、参議院選挙の情勢等について感想等お伺いしたいと思いますのでお願いします。

(知事)

いずれ（参議院選挙は）7月11日（投開票）に決まるのではないかと思います。ご承知のとおり普天間の問題で大変迷走しています。あるいは経済状況についても、ギリシャの金融不安から世界的に引けてきている中で、株価が非常に下落し、円高傾向となり、輸出企業がようやく今、プラスになった、持ち直したのが、腰が折れるということが心配される状況です。

さらに、私もいろいろな企業の方々にお会いしますと、現政権の経済戦略がよく見えないうことを言われます。アメリカとの関係がよくなると日本企業がバッシングを受けると。これはきちっとしたルール、証拠というのがない訳ですが、どうも企業の方々はそのようにとらえている向きがありまして、大半の企業が新しい投資について、今、

踏みとどまっているという状況ではないかと思えます。この後の政治体制がどうなるのかを見極めている段階で、新しい設備投資についてどうすべきかと考えているという感じがします。このままの状況でいくと、国外への投資を増やさざるを得ないというのが、本音ではないかと思えます。すべて現政権がいいのか悪いのかという問題ばかりではない訳ですが、そこら辺が今回の選挙にどのように働くのかということではないかと思えます。

子ども手当の問題も現場からはその取り扱いについて、例えば、外国に（養子の）子供さんが何百人いるとかということもありました。現場に任せるということも必要ですけども、国の政策について、自治体の判断に委ねるというのも、実際として困る話で、今後、子ども手当については、（現行の）1万3,000円に（プラスして）もう1万3,000円分を現金給付以外にという話も出ていますが、それを自治体の裁量に任せると言われても、市町村になると思いますが、非常に困るのではないかと思えます。現金で欲しいという人もいるでしょうし、現金ではなくて保育所の方がいいという人もいるでしょうし、それぞればらばらですので、そこら辺が非常に困るのかなと思えます。

ですから、（民主党の）マニフェストを国としてやるというものについて最後のところまで責任を負わないで、途中からみんな自治体へと。これは地方分権でも何でもなく、そうであれば全体を任せればいい訳です。ここが非常に不明確で、自治体の現場からは、こういう事務処理も含めて、表にはなかなか出にくいんですけども、相当不満はあるような感じがします。

そういうことも踏まえて、判断されるのかなと思っていますが、現実の問題として、特に参議院選挙というのは直前の大きな風等で変わるときもありますので、7月11日までは1カ月半近くありますので、どういうことになるのか、まだ、推し計る状況にはないのかなと思えます。

あと、新しい政党の動きについて候補者と政党の名前が一致しない、あまり多くて、どれがどれなのかよくわからないというのが現実の状況ではないかと思えます。新政党、ミニ政党それぞれが存在感をどうアピールしていくのか。少数政党の大半が、やや反民主、親自民という形ですので、そこら辺で票がどのように割れるのかなと思っています。これが全体的な感想です。

あと、秋田県内の選挙区選挙であとは出る人がいるのかいないのか、（今、立候補が予定されている）3名の方で終わりなのかどうか、そこら辺はまだ明確ではありません。

以上であります。

（幹事社）

では、この件について各社さん、お願いします。

（記者）

今の参議院選挙への対応の関連で、知事は就任されてから、政党色が強い集会等については、ほとんど出席されてこなかったと思うんですが、土曜日、自民党の会合に出席されたということ、その乾杯の前のあいさつの内容、それからこれまで会見等で度々おっしゃって来た、今の民主党政権に対する批判的な見方等々も含めて、我々としては知事、自民党に対してシンパシーを感じているというスタンスだと受け止めるんですが、今度の参議

院選挙でのお立場というか、政党、あるいは候補に対する支持、ご自身としてのどの程度まで支援をするのかということも含めて改めてお聞かせください。

(知 事)

ちょっと誤解されているようですが、私は政党の関係にはほとんど出ています。お招きがあったものについて、私が行けなければ代理を出席させていますし、例えば自民党関係のものについては十数年出てますし、連合の会合にも出席しています。社民党のそういう会にも出ています。

ただ、政党等の会合というものは内輪の会なんです。そういう会に出て、私なりのお話はさせていただいています。これは、秋田市長のときもそうでしたけれども、少なくとも不特定多数の方々に支持を訴えろとか、自分の後援会に特定の候補の人を支持するようにお願いするということは今までもしておりません。

ということで、公示、告示されてからは、どの候補者の集会にも出たことはありませんし、また、街頭を含めて特定の候補を応援するというを外に向かって大きな声で発信するというところもありませんでした。今回の選挙もそれは同じだと思います

ただ、当然、お招きにいただいたときに、候補者が横にいて、この候補者は落ちてくださいとは、やっぱり言えないです。少なくとも我々の立場としては・・・1人区のところには2人の候補者へ推薦状を出すということもありますので、特定の政党の集まりに行った際にある程度はエールを送るということは儀礼としてあっていいのではないかと思います。

(記 者)

わかりました。公示前ということで今回のような行動ないし発言というのはあったけれども、確認ですけれど、公示後については特定の候補について支援するということはないという。

(知 事)

少なくとも秋田市長のときはそういうことはありませんでした。例えば個人演説会に行くとか、街頭での大集会などにも私は行ったことはありません。今回の参議院選挙もそうです。

(記 者)

ありがとうございます。

(幹事社)

ほかは、皆さん、いかがでしょうか。

(記 者)

今の関連ですけれど、そうしますと、知事が土曜日に自民党の会合での乾杯のあいさつで秋田を隅から隅まで巨人にしたいとおっしゃったお言葉の真意はどういうことだったん

でしょうか。

(知 事)

ああいうときは、あまり難しい考えで私は喋りません。ただ、ジャイアンツ (=巨人) の関係の方がいらっしゃるようでしたので、ジャイアンツにはいろんな面でご厄介になっています。また、私もジャイアンツファンですので、そういう意図でお話したということです。あの場にいた方の顔ぶれをみると、ほぼ、(自民党に票を) 入れるのを前提に集まっている方ではないかと思います。全く外での集会になると、そういうことは言わないと思います。

(記 者)

知事個人のあいさつが石井さん、あるいは自民党を支持したいと、支援ではなくて支持したいという見解の表明だったのでしょうか。

(知 事)

そうでもないです。あまり難しく考えないで、投票する直前に考えるというのが私の主義です。いろいろな義理があったりすると、家族内の票を分けるということはありません。何も言わないで「乾杯」というわけにもいきませんし・・・やはり、一定の儀礼の範囲内で申し上げるということは皆さんもされるのではないかと思いますけれども。

(記 者)

細かくて恐縮ですが、もし、民主党の現職さんとか他候補さんから会合に招かれれば同じようなあいさつはされると。

(知 事)

民主党さんが私を招くことがあり得るかどうかわかりませんが、それは当然行けば頑張ってくださいってことはお話いたします。

(記 者)

ちょっと変わりますけれども、今回知事の見方で、今回の参院選はどのようなことが争点となるのか、あるいは争点となるべきなのか、そのお考えをお聞かせください。

(知 事)

私は政治行政というのはデジタルではないと思っています。イチかゼロかではないんです。民主党がマニフェストというものを大事にするのは当然ですが、かなりの分野で、自民党が決めたことはすべて駄目だという前提で覆そうとして相当無理しています。自民党時代に決めたことについて賛同したものは自民党的だということ。

こういうやり方は私はいかなるものかなと思います。そのときは、手続きがあつて法的なものにも則って決めたことですので、それを全部、過去に遡って否定するということは、私は非常に無駄もあるし無理があると思います。ですから、すべてを否定するのではなく、

否定するものは否定しながら、自民党であってもなくても一定の方向性、日本全体を考えていいと思うものは、極端に分ける必要はないのではないかと思います。何となく、事業仕分けを見ても、自民党時代に決めたことだから、それに従うのは駄目だという頭でバサッときています。政権運営に無理を来していると思います。何となく国民の間にいらだち感があるのかなという感じがします。

もう一つは、野党の時代に随分、(政治と)金の問題で(自民党を)追求をしていたけれども、自分のこととなるとそういう問題について追求しないと、そこら辺のその曖昧さとか、それから、新人が多いから仕方がないでしょうけれども、党内民主主義というものが見えないと。地方主権、地方分権と言いながら、例えば子ども手当の半分を地方自治体に委ねるとか、まだはっきりしてないからかもしれませんけれども・・・そういうことが、市長会だとか知事会だとか町村会に、情報(提供)も、聴取も何もないような状態で、そうしましたということが非常に上意下達で、ものを決める時に全く情報交換をやらないと。ここら辺が、かつて民主党の議員であった埼玉県知事も、前横浜市長もそうですけれども、民主党の議員であった方々の首長が民主党に反発しているというのは、まさにそういうところが出ているのかなと思います。

(記者)

とすれば、今おっしゃっていただいた知事の見方がある訳ですが、そうしたその民主党の政権運営等に対する、一つの審判となるという見方ということでしょうか。

(知事)

私は自民党は別に置いて、民主党の今の8カ月間の状態と、その前の状態、そこら辺の流れ、落差というものをどう感ずるかによって投票行動がある程度決まってくるのかなと。ただ、その受け皿がどこかは非常に分かりにくいという感じがいたします。

(記者)

ジャイアンツ発言に戻りますけれども、その土曜日の集会では知事のあいさつの前に小池百合子さんが自民党は要はジャイアンツであったというあいさつがあった、その後の発言ということで、一緒に自民党をすごく持ち上げておられるなというような印象を持った訳ですが、一方で今年行ってませんけれども去年の連合秋田のメーデーで、政権交代に向けて団結頑張ろうという掛け声を知事も一緒になって頑張ろうとおっしゃっていて、それは一般有権者から見れば、全く真逆のことをやっておられるというようにも見えると思うんです。もちろん知事選での推薦の事情はあったにせよ、そういう行動が一般的に理解されるかどうか、この点、知事どうお考えでいらっしゃいますでしょうか。

(知事)

小池さんがそのように言ったということをおそらく考えないで話しをしました。だからそういう意味は全くありません。

去年の段階では、自民党から支持が得られたことは別にして、政権発足時には民主党にかなり期待をしたこともあるんです。一つの大きな政治の流れというものをある程度

許容しながらやっていくべきだということもありました。ただ、どうも、所得補償の問題にしても、事業仕分けの中身はいいんですけれども、その後の状況が、民主党の思いをしつくりと受け止めることができないような状況を民主党自らがつくり上げているという批判はあっていいのではないかと思います。

確かに連合からも推薦をいただき、支持をいただいています。そういう状況(=政権交代)になるという前提で私は考えていましたけれども、いざ、(政権交代に)なってみたら、知事会でも首長会でも不平・不満がたくさん出ているという状況です。民主党も反省していただかないと困る訳です。これ以上、上意下達で、地方の声を全く聞かなくなると、自治体はある時点で反民主になります。そういう警鐘もあります。

(記者)

わかりました。

(幹事社)

ほか、参院選について質問ございませんでしょうか。
なければ、そのほかについて質問ありましたらお願いします。

(記者)

湖東地区の医療再編計画についてお尋ねしますけれども、作成の現時点の状況と今後の見通しについてお聞かせください。

(知事)

10月までにということですが、粗々のプランについてはできるだけ早急にアウトラインを決めて、できれば来年から事業開始できればということでは今進めています。担当所管の農林水産省とも協議に入っているという状況です。

大学病院等とも連携をとりながら情報交換をしながら着々と進めつつあるということです。

(記者)

以前に6月の議会を目途にというお話もあったんですが、そのスケジュールはお変わりないでしょうか。

(知事)

6月議会に全部出せる話ではないんですけれども、少なくとも来年度からある程度取りかかるとすると、9月議会の頃まではきちっとした方向を出さなければいけないということで、今いろいろクリアすべき点、あるいは財源問題等についての粗々の考え方について、6月議会の中でお話をしながら、最終的には9月議会を目途に具体化を図るという準備をしています。

(記者)

先週、知事が事業仕分けの現場に出席されましたけれども、実際に行ってみて、事業仕分けというものをどう感じられたのか、またその効果というものを実感されたか、そのあたりお話いただけますでしょうか。

(知 事)

ほかの事業仕分けには立ち会っておりませんのでわかりませんが、中身そのもの、題材そのものを私は悪いという訳ではなくて、非常に国の行政システムには問題がたくさんあるのは確かであります。ただ、今回のことについて限定して考えますと、意外と論理的に合わない点があります。我々自治体からすると、宝くじの発行者は都道府県及び政令市です。その宝くじはある意味では博打でありますので、発行するには担当の総務大臣の認可が必要です。その宣伝普及をするのが、宝くじ協会とか、自治総合センターの公益法人でして、これらの仕組みの中では総務大臣がそれらの(公益法人の)設立の認可者です。そこに関する指導権限、間接的人事権も総務大臣にあって、都道府県とか政令市にはありませんので、天下りが多いか少ないか、給与体系が適正かどうか、入っている事務所が贅沢かどうかというのは、総務大臣の指導権限です。我々は認可権者でもない訳で、国が宣伝普及に使いなさいということで、それらの公益法人に金が自動的に流れるようになっていきます。確かに自治体からも評議員に入っていますけれども、事業仕分けをしなくても総務大臣がこういうところに天下りは駄目だと、給料を低くしろと指導すればそれで終わりなんです。国の中でやるべきことに我々が呼ばれて、自治体の監督が不行届きみたいと言われるのはやや心外です。我々に監督権限はないですから。

そういう意味からすると、仕分けしなくても、大臣が局長を呼んでこうなさいと言えば済むこと・・・なかなか官僚の抵抗が激しいから(仕分けを)やっているかもしれませんけれども・・・何かおかしいと思います。仕分けというのは何なのかと。

私は、総務大臣から、正直にありのまま思ったことを言ってくださいと言われましたので、もう一方の知事さんは総務省出身の方ですのでなかなか言いにくかったでしょうけれども・・・私はありのまま、給料はちょっと高いのではということはお話しました。宣伝の団体の中身は我々もわかるんですけども、さらにそこから別のところに(お金が)いっているということを発行者である知事が知らないのが悪いと言われましたけれども、そこまで踏み込んでというのは・・・実際にわかりにくいということは確かです。

ですから、(事業仕分けの終了後に)知事会の事務総長に、会長と相談して、時代が非常に変化しているので、宣伝担当の法人が事業をするにしても、その内容が今のものに合っているのかどうか、宣伝経費が合理的なものなのか、これについては発行者ですので、発行者が評価して、こうあるべきだということを言う時期ではないですかと。政令市長会とも連携をとって、最終的には、上がり(=収益金)がたくさんもらえればいい訳です。それから、宝くじ買った人はできるだけ当選金が多ければいい訳で、そのために中間経費をいかに少なくするかという視点からもう一回チェックすべきだということを知事会の方にもお話しました。

(記 者)

仕分けの結果について、無駄の排除ができるまで大臣は発行を認めるべきではないとい

った結論付けでしたけれども。

(知 事)

それは本末転倒で、発行を認める大臣が自分の部下を掌握できずに、自分の認可権限をフルに活用せずに、その結果として出てきたいろんな問題についてその発行を認めるべきでないというのは、何か変な話です。だから、私はそれはおかしいと思います。都道府県が認可した法人で我々の方に指導権限等があつておかしいというのであればわかりますけれども、自分の認可した法人が悪いからと、そこにしかできないような法律的な仕組みになっている中で、今回の結論については、論理上おかしいなという感じがします。多分27日開催の知事会でもそういう話がされるのではないかと思います。

(記 者)

ありがとうございます。

(記 者)

この前の市町村長との協働政策会議で国民健康保険の広域化について、今後、研究会など立ち上げたいかがというお話ありましたけれども、特にそのときは結論が出なかったと思うんですが、その後進めようみたいなお話の展開などありましたら。

(知 事)

市長会と町村会と連携しながら、県の担当部局とも連携しながらという話でした。その先はまだどうなってるか私は掌握していません。

(記 者)

宝くじの件で、誰からどういう理由でその事業仕分けに参考人として呼ばれたかということ、テレビでは一部しか放映されませんでしたので、知事がどういう発言をされたか、その2点ちょっとお教え願いたいと思います。

(知 事)

総務省の担当部局の方からお話がありました。私はあくまでも第三者的な形で、意見陳述人みたいな形で呼ばれたと思っていました。宝くじ発行者として呼ばれるのであれば、知事会には宝くじの関係を総括するポストもありますから、本来は知事会を通してお話があるべきだと思います。たまたま地方で宝くじを使ってる発行者の一人ですので、何かの意見があれば、参考にといいこと呼ばれたのかなと思ったら、説明者の札を付けられて、私、ここですか？と言ったんですけども・・・その場でごたごた言うのも嫌ですし、逃げる訳にもいきませんでしたので。間接的でありますけれども、総務省の方から、大臣から思ったとおりお話をしてくださいという話でしたので思ったとおりお話をしました。

私からは、最初に人件費ということについて話があつて、もう1人の知事さんが2,000万円は高くないというお話でしたけれども、私は、知事が高いのか安いのかは別にして、今(給与を)カットしている知事もありますし、政令市も同じで、2,000万円と

いうのは決して安い金額ではないのではないのかと。正直言って高いと思いますよと言いました。また、仕事の内容としても役員の方と知事とでは、知事の方が大変だと思いますよとお話しました。

もう一つ、何をやってるのかどうかというところに入り込んでも、私自身、事業の中身を掌握していないものを下手に話す訳にいきませんので、私が話したのは、宝くじの原理原則からすると、最終的に発行者にいかによく収益金が入るかということが大切だと。一方で買ってくれる方は国民ですので、当選金もできるだけ多い方がいいでしょうから、当選金も増やすことだと。その中に今回の事業仕分けになった各事業、幾つかの法人の担っている広報宣伝がありますので、広報宣伝についてはあの場所へ行って初めてそういうことをしているのかとわかったものもありますので、広報宣伝の中身について合理的なのか、全体のバランスの中で広報事業として適正なのかどうかはもう一度チェックをする必要がありますと。

ただ、これについては、当然我々受け取る側でもありますので、我々知事会、あるいは政令市長会としても、その広報宣伝のあり方について、チェック・検討するとすると、そこには入るべきだということをお話をしました。

(幹事社)

ほかはございませんでしょうか。いいですか。

ではこれで終わります。ありがとうございました。